森村誠一

# 完全犯罪のエチュード

連作ドキュメンタリー・ミステリー

N.D.C.913　214p　18cm

完全犯罪のエチュード

一九九九年四月五日　第一刷発行

KODANSHA NOVELS

定価はカバーに表示してあります

著者—森村誠一　© SEIICHI MORIMURA 1999 Printed in Japan

発行者—野間佐和子

発行所—株式会社講談社

東京都文京区音羽二—一二—二一
郵便番号一一二—八〇〇一

編集部〇三—五三九五—三五〇六
販売部〇三—五三九五—三六二六
製作部〇三—五三九五—三六一五

印刷所—大日本印刷株式会社　製本所—和田製本工業株式会社

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にてお取替え致します。
なお、この本についてのお問い合わせは文芸図書第三出版部あてにお願い致します。
本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

ISBN4-06-182060-5（文三）

# ミッドナイト犯罪のエチュード

仁木誠一

ODANSHA 講談社ノベルス NOVELS

ブックデザイン＝熊谷博人
カバーイラストレーション＝野中　昇
本文イラストレーション＝庭野寛之

日本财团支援

财团法人日本科学協会

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

目次

敗れる花 9
見忘れた夢 39
善意の傘 69
停年のない殺意 95
途中下車する女 125
致死音 169

# 完全犯罪のエチュード

エチュード（フランス étude）

①絵画、彫刻などの習作。

②西洋音楽で、おもに器楽奏法習得のためにつくられた楽曲。練習曲。

③研究、論。

# 敗れる花

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

# 1

一月二十日午後一時、東京・西新宿にある「新宿ブラザーズホテル」の二〇二四号室の宿泊客がチェックアウト・タイムを過ぎても電話に応答しないので、様子を見てほしいというフロントの要請を受けた二十階の客室係小室洋子は、マスターキーを持って同室へ赴いた。

二〇二四号室はダブルルームで、フロントにレジスターされた客名は尾高和子となっている。

同行者はいない。

最近のシティホテルの傾向であるが、シングルルームを置かず、単身客はおおむねダブルルームをシングルユース（単独宿泊）する。

二〇二四号室には入室禁止札はかけられていない。

フロント係も客室係も、二〇二四号室からは出発の意思表示も延長の通告も受けていない。

一泊の宿泊客はチェックアウト・タイムの正午までにはほとんどが出発してしまう。

午後一時を過ぎてもフロントになんの連絡もなく、電話に応答もしないということは、未精算のまま出発したか、連絡なく外出している可能性が大きい。

小室洋子は部屋の前に立って一呼吸すると、チャイムを押した。

室内でチャイムが鳴っているが、人の動く気配はない。

彼女は再度チャイムを押した後、ノックをした。依然として気配はない。まったく無人の様子である。

洋子はドンディス・タッグがかけられていないので、マスターキーを差し込んでドア・オープンした。
チェーンはかけられていない。
まずドアを細めに開いて、
「尾高様、いらっしゃいますか」
と声をかけた。
応答はない。
ドアロからベッドは死角に入っている。
「尾高様、お留守ですか」
洋子は再度声をかけて、そろりと室内へ入った。
カーテンが引かれているので室内は薄暗い。室内の空気が澱(よど)んでいる。
そのとき、不吉な予感が彼女の胸を走った。
無人ならば空気はこんな澱み方はしない。澱んだ底で空気が腐っている。
ドアロ左手にバス・トイレットルームがあって、その奥にベッドがある。
数歩進むと、ベッドが視野に入った。
ベッドの上がこんもりと盛り上がっている。
(いけない、お寝(ね)み中だったわ)
洋子はぎょっとしてたたずんだ。
おそらくドンディス・タッグも出さぬままチェックアウト・タイム以後、眠りこけているのであろう。
昨夜眠れなかったか、徹夜で仕事をしたのか、遅く帰館したのであろう。
「失礼しました」
詫びの言葉を半ば喉(のど)の奥に飲み込んで引き返そうとしかけた洋子は、ベッドの上の盛り上がりがぴくりとも動かないのに気づいた。寝息も聞こえない。
洋子は、はっとなって硬直した。彼女はベッドの中身を確かめられなかった。
部屋から逃げるように飛び出すと、フロアステー

ションからフロントへ異変を連絡した。
フロント課長やアシスタント・マネージャーが飛んで来た。
二〇二四号室の主はベッドの中で死んでいた。枕元に空の睡眠薬のビンが転がっていた。
ナイトテーブルには冷蔵庫から取り出した缶ビールの空き缶が二本と、空のグラスが一個載せてあった。
一見したところ、遺書は見当たらない。
ホテルの首脳陣が召集され、警察に連絡することに衆議一決した。
ホテルはマスコミ沙汰になることを極度に嫌う。なるべくならば内聞にすませたいところであるが、死者が出たとなると揉み消せる性質のものではない。
管轄の新宿署から捜査員が臨場して来た。
一見、自殺の体をなしていても、警察としては変死体は自・他殺、事故死、三面の構えで捜査をしなければならない。
枕元に転がっていた睡眠薬は市販の商品であった。
死体は眼瞼に目脂を生じ、明らかに睡眠薬中毒死の症状を呈している。

## 2

検視の第一所見では、
死亡は昨夜午後十時から午前零時の間。
本人自身が記入したフロントのレジスターカードによると、死者の名は尾高和子、二十七歳。
住居は世田谷区赤堤。
職業、作詞家となっている。
腕にはめた時計は午前零時で停止していた。
ホテルには昨日、本人自身から電話予約があった

そうである。
死体はホテル備えつけのバスローブをまとい、生前、入浴した形跡があった。
浴室を覗いた新宿署刑事牛尾は、浴室のドアを開いた瞬間、入口に棒立ちになった。
バスタブに湯が張られ、浴室の床にはむしられたユリの花弁が敷きつめたように散らばっていた。
ユリの花粉の芳香が重苦しいまでにこもっている。
浴槽の中には花弁をむしり取られたユリの茎が浮かんでいる。
「一体、こりゃあなんの真似だい」
牛尾の後ろから浴室を覗いた青柳刑事が驚いた口調で言った。
「死出の花道と言うが、死出の花風呂かね」
牛尾は浴室を観察しながら、トラッシュボックスの中に落ちている紙片に目を止めた。
つまみ上げてみると、ホテル備えつけの便箋になにか文字が書きかけてある。
「なにかありましたか」
青柳が牛尾の手許を覗き込んだ。
便箋には次のような文言が書かれていた。

破れる花
生きようと思わない花の
咲くときが来た
午前零時　時計を停めて
道のない空を踏みしめ
それはゆったりと微笑んでみせた

一言の覚悟のあとで
蕾を押し破りながら
最後の浴室に花を敷きつめ
ありったけの花弁を撒き散らした

見事な花火だったと　誉められるためだけに

一瞬で忘れられるというのに
誰も覚えていてはくれないのに

初めから生きてはいけない運命が
この世にはあったと
夜を見上げて教えられた

それは破れる花だった

最後まで生きられない人生が
女にはあることを
あなたと出逢って教えられた
それも破れる花だった

なぜ私より前に　出会った人がいるのだろう
なぜ私よりもっと　愛した人がいたのだろう

あなたを見ていると
哀しくてどうしようもなくなる
私の知らない思い出たちが
あなたに上手(うま)く取り入って
忘れさせないでいるから

私があなたを一番傷つけられる女でいたい
今までよりも　これからよりも
愛されぬいて　捨ててみたい

あなたの思い出にかなわないのなら
私が思い出になるしかないでしょう
忘れたくても忘れられないように
そのために演じよう


此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong